

## 北海道のこころみ

2008年11月25日 IW2008

澤田 周 (LOCAL, 日本PostgreSQLユーザ  
会)

sawada@local.gr.jp



## 北海道のあゆみ

- 2004年より毎年OSSイベントを開催しています
  - GoDo2004 (@札幌市産業振興センター)
  - OSC2005-Do (@北大)
  - OSC2006-Do (@北大)
  - OSC2007-Do (@北大)
  - OSC2008-Do (@札幌市産業振興センター)
- 例年の規模感
  - 参加者300名・4トラック・5コマ程度
- 札幌地区における、唯一の(?)大規模なOSS関連イベントとして定着



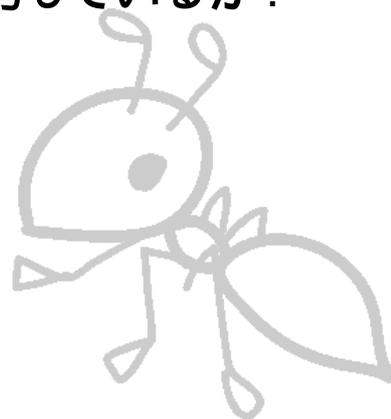
## 2007年までの問題点



# 問題点 1

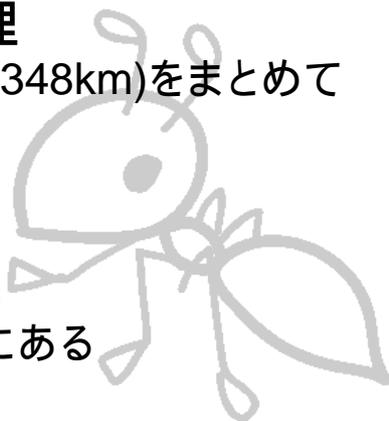
---

- 地域ユーザグループの活動が停滞
  - そもそも、地域UGの存在意義は？
    - 技術なら全国MLで訊くべき
  - どれだけの人が実際にUGに参与しているか？
    - 数人のみがかがっている



## 問題点 2

- 北海道は、かなり広い
  - 札幌 - 釧路:325km
  - 札幌 - 旭川:134km
  - 札幌 - 函館:253km
  - 札幌 - 北見:293km
- 「北海道」と一言にまとめるのは無理
  - 東京 - 名古屋(362km)や東京 - 仙台(348km)をまとめて「東京」と呼ぶようなもの
- アクティブな人材は札幌に集中
  - 他地域でのコミュニティが成立しづらい
  - 東京と全国各地域、の縮図が北海道にある



## 問題点 3

- OSC開催現地部隊の固定化
  - 6人程度が中核となり、多数の協力を得て開催
  - 毎年となると、リソース的に厳しい
  - 現状の体制であと3年続けられるか？
- どうすれば、よりよいOSCになるか？
  - 現状の体制では限界



## 問題点 4

- イベント開催障壁
  - オカネがない
    - 小さな勉強会程度ならカンパで運営可能
    - 講師を招聘しようとする、費用は運営スタッフによる持ち出し？
    - 技術的な興味で動いているコミュニティは、技術的な興味で動いた方が楽しい
  - 会場を都度一生懸命探さないといけない
  - 告知チャンネルってどこ？？



## 問題点 5

- 学生が首都圏に就職してしまう
  - 北海道に(魅力的な)仕事がないから？
  - 技術者がいないから魅力的な仕事がない？
    - 決して技術者がいないわけでは、、
- そんなのつまらない！！！！



## 問題だらけ

---

- 明るい材料がないわけではない
  - Ruby札幌
  - 釧路OSSセミナー
  
- 何かできないか？ 現状のままが良いのか？



## そこでLOCAL

---

- Leading Organization of Community Activity for LOCAL
- 2007年の秋に結成
- 活動内容
  - イベントの企画・開催
    - 季節に1度の開催が目標
    - OSCもこの1つ
  - 地域の技術イベントを開催支援
    - ひとの繋ぎ、費用、プロジェクト等雑品貸与など
  - 活動資金確保、運用管理
  - コミュニティ間の交流の促進



# LOCALの特徴

- くくりが違う
  - 特定のソフトウェアをテーマにしたUGではない
  - 近場の「この辺の技術」で話ができる人たちのコミュニティ
  - プロプラでも全然構わない
    - 今は「どう組み上げてサービスにするか？」の時代
- 「地元が好き」重要。
- 「やってて自分たちも楽しめる」重要。
- 「技術者が幸せになるには？」



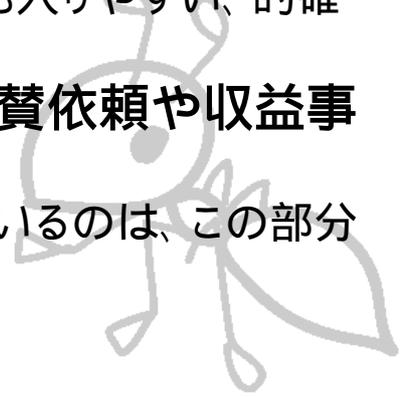
# LOCALの目標

- 地域に技術者文化を根付かせること
  - 技術者にとって魅力ある土壌作り
    - 「サッポロバレー」の基礎ではないか
  - 技術者同士の交流の促進
    - その中からベンチャーが現れるような展開を期待
  - 学生にとって魅力ある地元作り
    - プラスのスパイラルへの転換を目指して



# LOCALの目標

- **持続可能な組織とすること**
  - NPO法人化を前提として結成
    - 現在、最終調整段階
  - 属人性の排除
    - 特定個人のモチベーションに左右されてはいけない
    - 「ちょっと手伝おうかな」という層にも入りやすい、的確な仕事・責任の分担
  - 資金獲得を目指す。企業への協賛依頼や収益事業を行うことを検討
    - JPUGやOSCが資金を確保できているのは、この部分をちゃんとやれているから



# LOCALの目標

- **社会的に認められる組織であること**
  - 資金獲得を目指すということは、当然社会に関わるということ
  - コミュニティの活動を支援することが社会に良い影響を与えることを示す
    - コミュニティはあくまで技術者の興味によるコミュニティであるべき
    - ある種コミュニティを代表する形で、LOCALがお金を持ってないか？
  - そのためにもNPO化が必要だった
    - 意志決定ができること
    - 責任者がいるということ



# LOCALの活動実績

- 2008年2月： JPUG北海道支部 / Ruby札幌 合同セミナー
  - コーディネート, 会場費支援
- 2008年6月： OSC2008北海道
  - 現地実行委員会
- 2008年8月： くしろOSSセミナー講師派遣
  - Ruby, Linux
- 2008年9月： 高専カンファレンス開催支援
  - 会場費用協力, ほか雑品等提供など
- 2008年9月： PHP勉強会開催
  - LOCAL課外活動(PHP部)による
- 2008年10月： 札幌Ruby会議01開催支援
  - プロジェクト貸与
- 2008年12月： PHP勉強会開催(予定)



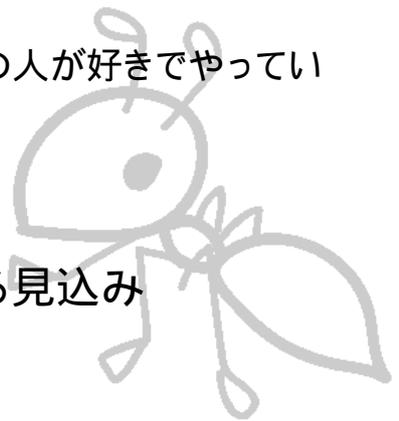
# LOCAL 現在のjobs

- NPO設立プロジェクト
  - 事務処理的な部分进行处理中
- 言語系イベント企画プロジェクト
  - 言語好きをターゲットにしたイベントの企画中
- 冬イベント企画プロジェクト
  - 年明け早々にイベント企画が進行中
- 地域支援プロジェクト
  - 道内各地域のイベント開催を支援
    - 札幌圏有志の「持ちネタ」リストを文書化
    - 道内各地の「勉強会開催したい」方々と調整等



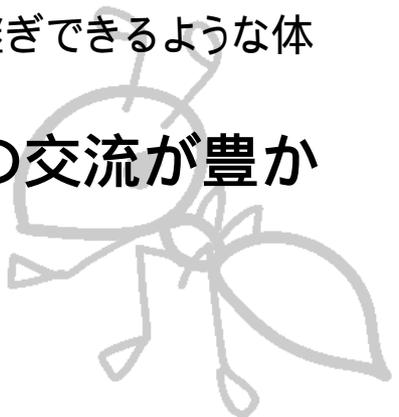
# LOCAL 現在のjobs

- イベント会場手配を支援するぞプロジェクト
  - 札幌市内で使える・実績のある会場を文書化
- ロゴ・名刺作るぞプロジェクト
  - この資料背景のキャラクタが成果物です
- LOCAL PHP部
  - ゆるーくPHPの勉強会を開催
    - LOCAL自体の活動ではないが、LOCALの人が好きでやっている、という立ち位置
- OSC2009北海道
  - 会場について調整中
  - 年内に開催テーマに関する議論に入る見込み



# やってみて

- 新しい人が増えてきました
  - 「OSCやってるところって、どこよ」への回答
    - 目に見える組織であることのメリット
    - 過去数年間固定のメンバでやっていたことを考えると、大きな進歩
    - そういった人たちにいずれは引き継ぎできるような体制の構築が急務
- (少なくとも自分の回りでは)人の交流が豊かになりました



## やってみて

- OSCはいい感じで開催できました
  - 反省点はあるが今後の発展を見通せる流れ
- 現状はいろいろいっぱい입니다
  - まだ属人性が強い状況
  - 属人性を排除するためのルール作りを策定中
    - 必要な部分は属人性を否定しない
- 定期的な活動が重要
  - 月に1度の定例会をマイルストーンにしてプロジェクトが進行



## 最後に

- LOCALは北海道だけのものではないと思っています
- 僕たちはいつでも、<http://www.local.gr.jp/> から <http://www.hokkaido.local.gr.jp/> に変更する心の準備はできています
  - むしろ望んでいます
- どの地域にも「OSCに関わる飲み仲間」がいらっしゃると思います。こういう形でやってみるのも一つの方法ではないでしょうか

